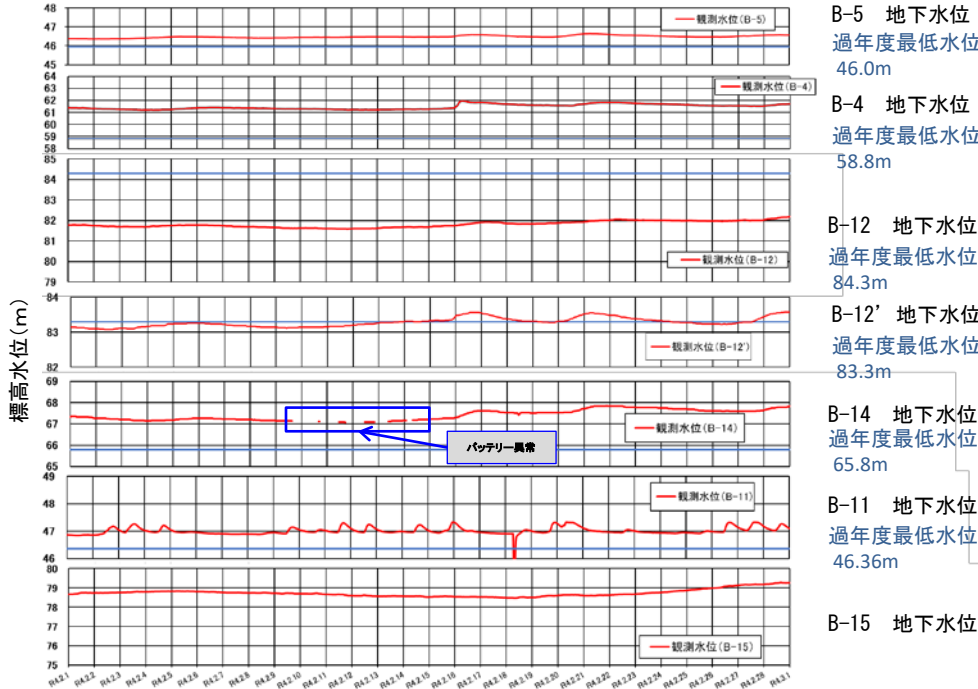


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

調査期間: 令和4年2月1日(火)～令和4年2月28日(月)

「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。

※主要箇所のみ抜粋 地下水水位観測結果図(自記記録)



全体総括

- 目立った変動なし □やや変動あり
- 変動あり(注意体制への移行を検討)
- 期間中の地下水低下量
 - 1m未満ないし増加:すべて
 - 2m未満 □5m未満 □5m以上
- 期間中の流量低下量
 - 50ℓ/分未満ないし増加:すべて □50ℓ/分以上
- 期間中のpH変動量
 - 0.5未満:B-8,B-12 □0.5以上 □1以上
- 日降水量
 - 15mm未満 ■15mm以上(5日) □50mm以上
- 月降水量
 - 80mm未満 □80mm以上 □130mm以上 ■200mm以上

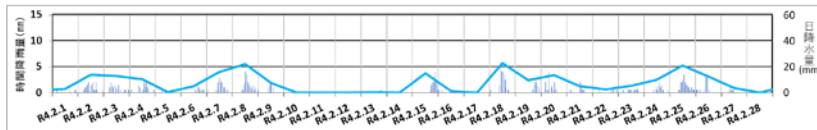
概要

■水位変動について

- ①目立った変動なし。
- ②B-4(自記水位計): 期間中の降水に明瞭な反応を示さない。過年度最低水位を上回った状態が継続する。
- ③B-5(自記水位計): 期間中の降水に明瞭な反応を示さない。水位は過年度最低水位を上回った状態にある。
- ④B-12(自記水位計): 期間中の降水に明瞭な反応を示さない。期間後半では水位は上昇し標高82.1m程度となる。ただ引き続き過年度最低値を下回っている状態が続く。今後も注視していく。
- ⑤B-12'(自動転送): 期間前半で降水にやや明瞭な反応し水位上昇がみられる。期間を通して過年度最低水位を上下する水位変動を示し、期間末では過年度最低水位をわずかに上回る状態となる。今後も注視していく。
- ⑥B-14(自動転送): 期間中の降水に明瞭な反応を示さない。期間中は過去最低水位を上回る状態が続く。今後も注視していく。
- ⑦B-15(自記水位計): 期間を通して水位は標高79.2m程度となる。
- ⑧No.3(自動転送): 期間を通して降雨に明瞭な反応を示し、期間を通して流量は増加と減少を繰り返す。今後も引き続き注視していく。
- ⑨No.5(自記): 期間内の2/17に流量を確認。それ以外は流量0となる。
⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。
⇒観測地点での流量が一定の降水量(例えば時間降水量、連続降水量)の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。

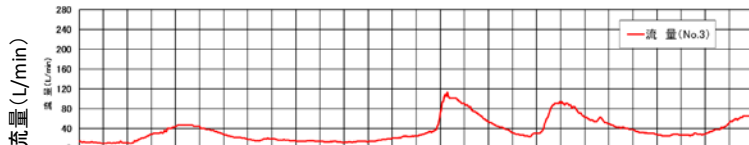
■降水量について

- ①2月の日最大降水量: 2/18の23.0mmである。
- ⇒1月の日最大降水量: 1/2の29.0mmである。
- ②2月の月降水量: 215.0mmである。
- ⇒1月の月降水量: 206.5mmである。

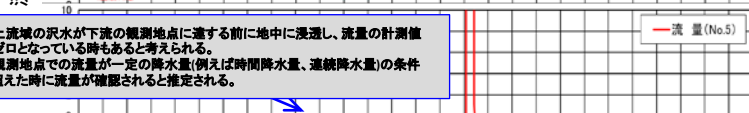


雨量

流量観測結果図(自記記録)

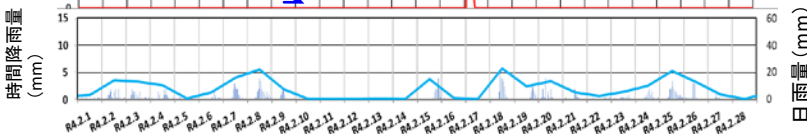


No. 3 流量



No. 5 流量

※上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透し、流量の計測値がゼロとなっている時もあると考えられる。
※観測地点での流量が一定の降水量(例えば時間降水量、連続降水量)の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。



雨量